

「留学体験 in 福谷」ボランティア経験を終えて



67回生 三嶋 あゆみ

11月23日、人口の過疎化により廃校となった旧福谷小学校で行われた国際交流イベントにボランティアとして参加させて頂きました。この国際交流イベントは、旧福谷小学校内を外国に見たて、外国人と英語でコミュニケーションをとりながら、自主性や国際力を学ぶことを目的としたイベントです。講師、またはチームメイトとして招かれた外国人は、ガーナ人、インドネシア人、ジャマイカ人、イタリア人、アメリカ人、中国人、フィリピン人等と多種多様でした。

今回は、チームメイトとして参加させて頂き、運営の方から「子どもたちとも英語で話して下さい」と指示通りに彼らと英語で話すよう努めました。このイベントに参加している子ども達は、英語学習や国際交流経験のある子達ばかりで、初めは恥ずかしがって日本語でしか話してくれませんでした。が、だんだんと英語でも話してくれるようになりました。しかし、ほとんどの子ども達が外国人に話しかけられると黙り込み、「どうして話さないの?」と聞くと、「英語があってるかわからないから。」「聞き間違えてるかもしれないから。」と自信なさげに教えてくれました。

正直、私の語学力はとても低い。聞き間違えもよくするし、発音・文法なんてメチャクチャ。英語を話している途中で、とても自然に日本語を挟むこともあります。社会人として働いていた頃は、相手を混乱させないよう、迷惑をかけないよう、スペルや文法、発音に気をつけていましたが、正直、今は何も考えていません。だから、間違えばかり起こしているのですが、今の方が楽しく国際交流をすることができます。「仕事じゃないんだから、間違ったっていいじゃない。」というのが私の持論です。

子ども達には、上記をそのまま伝えました。最初は「え〜。」「でも〜。」と納得いかない様子でしたが、私が外国人と話す際、一度で理解できずに「え？なんて？」と日本語で聞き返したり、外国人が私の英語を聞き取れず、「Huh? (ハア?と聞こえ、「何て言ったの」という意味だそうだが、怒られているように感じる)」と言われても気にせず話し続ける姿を見てか、少しずつ外国人とも英語で話してくれるようになってとても嬉しかったです。

外国人との交流も充実していました。息を切らせながら母国のジャンピングゲームを教えてくれたジャマイカ人、お腹いっぱい何度伝えてもお茶やお菓子を勧めてくれるフィリピン人など、日本人の優しさや気遣いとはどこか違い、良い方ばかりでした。先日、赤十字活動論の授業で、「ボーダーレスな世界を作るために、国際的な視点が必要」と学びました。難しいことはわからないけれど、今回のボランティア経験を通じて、少しでも、私を含めた皆の国際的視野が広がっていいなと思います。

